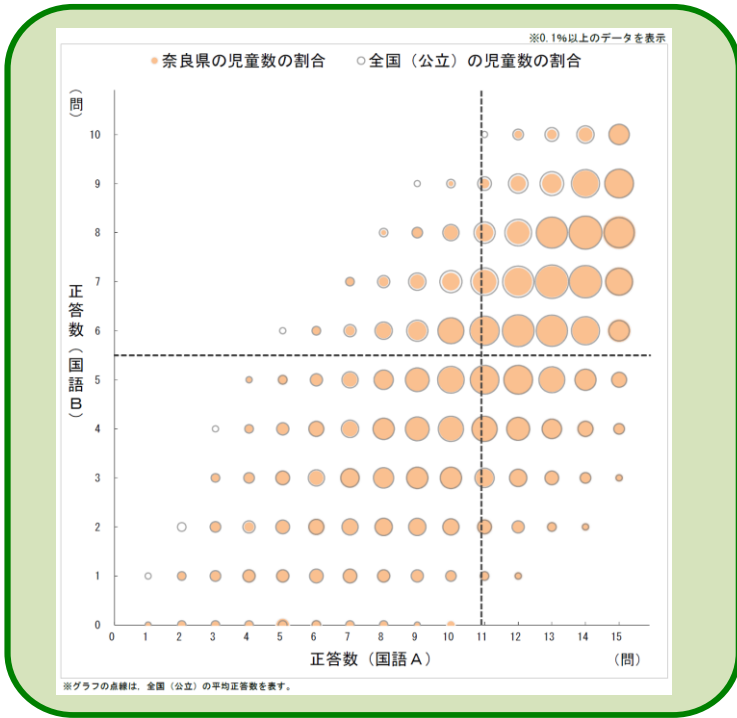


教科内の相関の相関（バブルチャートによる分析）

【国語】 活用の力が身に付いている児童生徒は、知識の定着も高い！

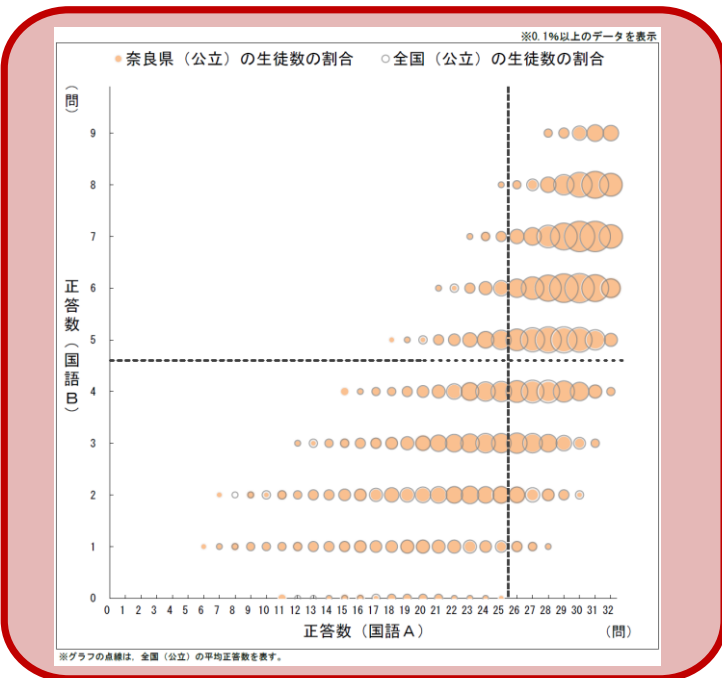


児童数	全国（公立） 国語A平均正答数	全国（公立） 国語B平均正答数	児童の正答数分布状況（上段：児童数 下段：児童数の割合(%)）				相関係数
			国語A・国語B ともに平均以上	国語Aは平均以上 国語Bは平均未満	国語Aは平均未満 国語Bは平均以上	国語A・国語B ともに平均未満	
11,722	10.9	5.5	4,949 42.2	2,293 19.6	910 7.8	3,570 30.5	0.641

○小学校、中学校のいずれにおいても、活用に関する問題（問題B）の正答数が多い児童生徒は、知識に関する問題（問題A）の正答数も多い。

○小学校、中学校のいずれにおいても、知識に関する問題（問題A）の正答数が多い児童生徒は、活用に関する問題（問題B）の正答数において広く分布している。

○平成 26年度の小学校では問題A・Bの相関が弱い傾向が見られる。

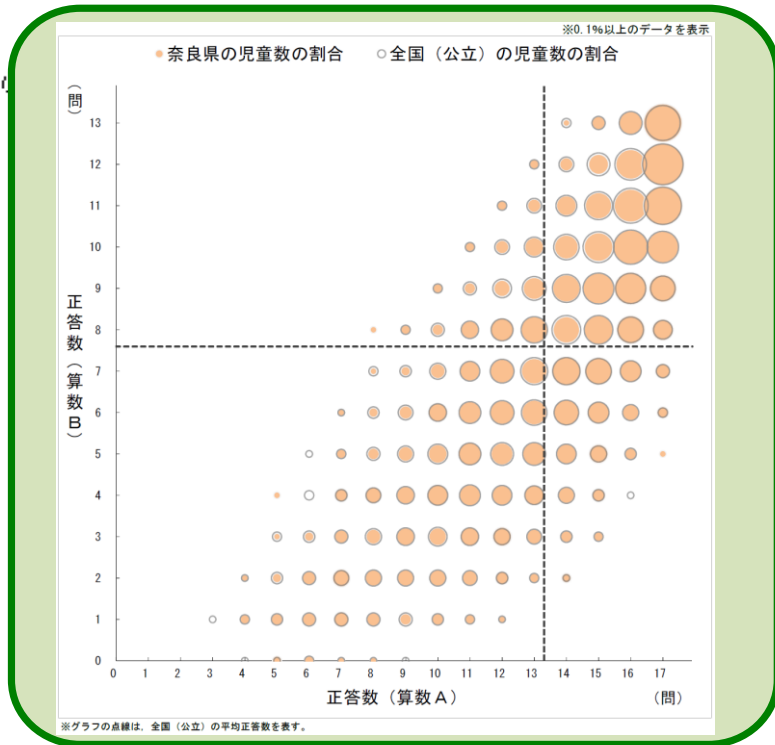


生徒数	全国（公立） 国語A平均正答数	全国（公立） 国語B平均正答数	生徒の正答数分布状況（上段：生徒数 下段：生徒数の割合(%)）				相関係数
			国語A・国語B ともに平均以上	国語Aは平均以上 国語Bは平均未満	国語Aは平均未満 国語Bは平均以上	国語A・国語B ともに平均未満	
10,631	25.4	4.6	4,838 45.5	1,551 14.6	715 6.7	3,527 33.2	0.680

バブルチャートによる グラフ

2軸の座標上（正答数）に、大きさが3軸目（児童生徒数）の指標を示す円状の図（バブル）を配置した図

【算数・数学】 特に中学校において、問題Aと問題Bの相関が強い！

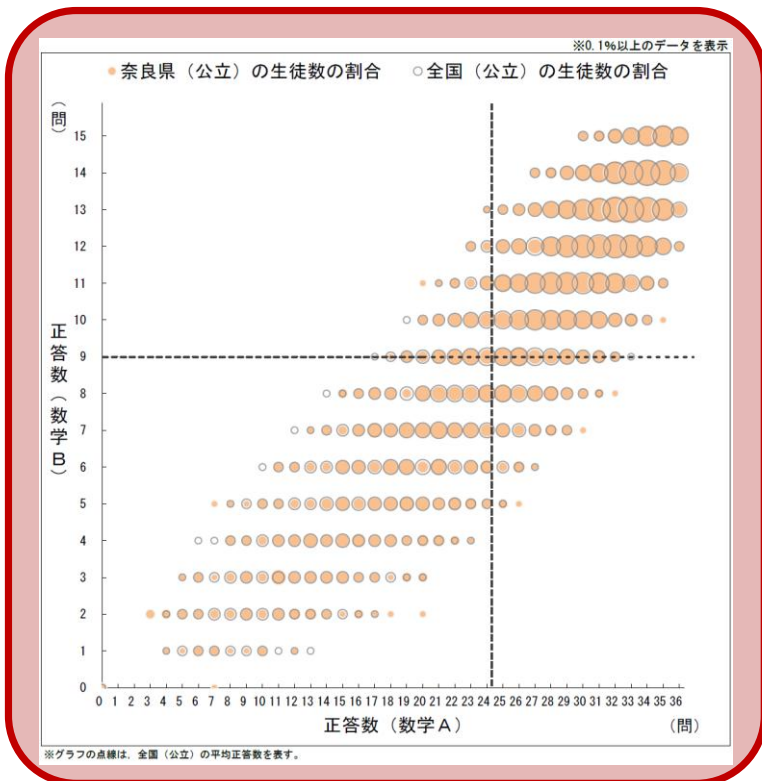


児童数	全国（公立）算数A平均正答数	全国（公立）算数B平均正答数	児童の正答数分布状況（上段：児童数 下段：児童数の割合(%)）				相関係数
			算数A・算数Bともに平均以上	算数Aは平均以上 算数Bは平均未満	算数Aは平均未満 算数Bは平均以上	算数A・算数Bともに平均未満	
11,709	13.3	7.6	5,109 43.6	1,500 12.8	1,031 8.8	4,069 34.8	0.747

○小学校、中学校のいずれにおいても、知識に関する問題（問題A）の正答数と活用に関する問題（問題B）の正答数の相関が強い。特に中学校において強い。

○小学校、中学校のいずれにおいても、活用に関する問題（問題B）の正答数が多い児童生徒は、知識に関する問題（問題A）の正答数も多い。

○平成 26年度も平成 25年度と同様の傾向が見られる。



生徒数	全国（公立）数学A平均正答数	全国（公立）数学B平均正答数	生徒の正答数分布状況（上段：生徒数 下段：生徒数の割合(%)）				相関係数
			数学A・数学Bともに平均以上	数学Aは平均以上 数学Bは平均未満	数学Aは平均未満 数学Bは平均以上	数学A・数学Bともに平均未満	
10,648	24.3	9.0	5,529 51.9	688 6.5	760 7.1	3,671 34.5	0.858